

【症例概要】

No.	患者		1日投与量 投与期間	副作用																								
	性・ 年齢	使用理由 (合併症)		経過及び処置																								
1	女 50代	悪性黒色腫 (胸膜転移, B 型肝炎キャリアー, 胸水)	エンコラ フェニブ (450mg), ビメチニブ (90mg) 2日間 ↓ 中止 ↓ エンコラ フェニブ (200mg), ビメチニブ (30mg) 14日間 ↓ エンコラ フェニブ (300mg), ビメチニブ (60mg) 8日間	<p>腫瘍崩壊症候群 既往歴なし</p> <p>投与開始日 BRAF遺伝子変異を有する根治切除不能な悪性黒色腫(再発, 原発巣:皮膚(体幹(臀部を含む))), 病型分類:表在拡大型, ステージIV, M分類:皮膚M1b, V600E変異)に対し両剤の投与を開始した。</p> <p>投与2日目 両側中心性漿液性脈絡網膜炎を認め, 両剤は中止した。</p> <p>投与2日目(投与中止日) 中止1日後 朝に発熱, 嘔気があり, 採血で高カリウム, 高尿酸血症, 急性腎不全を発症しており, 腫瘍崩壊症候群と診断した。処置として, 時間尿量100mLを超えるように補液の負荷を行い, フェブキシostat内服及び利尿薬の投与を開始した。</p> <p>中止3日後 腎機能や, 尿酸, カリウム値の著明な改善を認めた。</p> <p>中止5日後 腫瘍崩壊症候群は改善, 回復した。</p> <p>中止8日後 両剤の投与を再開した。</p> <p>(再投与開始日) 再投与15日目 両剤の用量を変更した。</p> <p>再投与3週間後 腫瘍崩壊症候群の再発なし。</p>																								
<p>臨床検査値</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>投与開始日</th> <th>中止1日後</th> <th>中止3日後</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>クレアチニン (mg/dL)</td> <td>0.55</td> <td>3.12</td> <td>1.04</td> </tr> <tr> <td>尿酸 (mg/dL)</td> <td>4.5</td> <td>12.4</td> <td>3.9</td> </tr> <tr> <td>カリウム (mmol/L)</td> <td>5.0</td> <td>6.1</td> <td>3.2</td> </tr> <tr> <td>カルシウム (mg/dL)</td> <td>8.4</td> <td>7.8</td> <td>-</td> </tr> <tr> <td>無機リン (mg/dL)</td> <td>4.3</td> <td>9.8</td> <td>-</td> </tr> </tbody> </table>						投与開始日	中止1日後	中止3日後	クレアチニン (mg/dL)	0.55	3.12	1.04	尿酸 (mg/dL)	4.5	12.4	3.9	カリウム (mmol/L)	5.0	6.1	3.2	カルシウム (mg/dL)	8.4	7.8	-	無機リン (mg/dL)	4.3	9.8	-
	投与開始日	中止1日後	中止3日後																									
クレアチニン (mg/dL)	0.55	3.12	1.04																									
尿酸 (mg/dL)	4.5	12.4	3.9																									
カリウム (mmol/L)	5.0	6.1	3.2																									
カルシウム (mg/dL)	8.4	7.8	-																									
無機リン (mg/dL)	4.3	9.8	-																									
併用薬なし																												

[症例概要]

No.	患者		1日投与量 投与期間	副作用	
	性・ 年齢	使用理由 (合併症)		経過及び処置	
2	女 40代	悪性黒色腫 (リンパ節転 移, 後腹膜転 移, 肝転移, 骨転移)	エンコラ フェニブ (450mg), ビメチニブ (90mg) 4日間 ↓ 中止 ↓ エンコラ フェニブ (450mg), ビメチニブ (90mg)	腫瘍崩壊症候群 既往歴なし, 喫煙歴あり 投与開始日 BRAF遺伝子変異を有する根治切除不能な悪性黒色腫 (組 織型: 悪性黒色腫, 原発巣: 左3趾, ステージ分類: I V, TNM分類: T4aN3M1) に対し両剤の投与を開始した。 投与4日目 高カリウムおよび高尿酸値が認められ, 腫瘍崩壊症候群と診 (投与中止日) 断した。処置として, 補液を開始した。両剤は中止した。 中止4日後 フェブキシostatの内服を開始した。 中止8日後 両剤の投与を再開した。 (再投与開始日) 再投与7日目 腫瘍崩壊症候群は回復した。	
臨床検査値					
			投与1日前	投与4日目 (投与中止日)	再投与7日目
		クレアチニン (mg/dL)	0.63	4.2	0.56
		尿酸 (mg/dL)	5.4	14.3	0.5
		カリウム (mmol/L)	4.4	5.0	3.9
		カルシウム (mg/dL)	9.1	8.1	7.9
		無機リン (mg/dL)	-	-	2.6
併用薬: ビラスチン, ロキソプロフェンナトリウム水和物, レバミピド, 沈降炭酸Ca・コレカルシフェロー ル・炭酸マグネシウム配合剤, トラマドール塩酸塩・アセトアミノフェン配合剤, ヒドロモルフォン塩酸塩					